

第6回 清和台地区学校のあり方を検討する懇話会 議事録

令和8年1月19日 午前11時～

【地域説明会に向けた資料や第5回懇話会の振り返りについて】

<問>説明させていただいた『地域説明会での意見等』や『川西養護学校・けやき坂小の学校運営協議会での意見』についての感想やご意見、周りの方々の反応などがあれば、お聞かせいただければと思います。

- ・川西養護学校には6～18歳までの子どもたちが通っている。重度障がいで人工呼吸器をつけているような子もおり、日常的に大人の支援が必要。感じる力がとても強いので、環境の変化に対して敏感。友達と仲良くなりたい半面、静かな環境も必要。
- ・川西養護学校は児童生徒の約3分の1が猪名川町の子どもたちで、南北に校区が広い学校。校舎の立地や老朽化もあるため、川西養護学校のあり方を考えていただきたい。
- ・説明会などに出ていない保護者にどこまで話が伝わっているのか。まだひとつの学校になるということがわかっていない様子だった。はっきりと言うべきではないか。

《教育委員会》

⇒清和台小・清和台南小の保護者には、説明会后、学校から児童を通じて地域説明会の資料を全家庭に配布している。今後、意見交換する場を持ち、具体的にどの場所でどのような形でやるのかということに対して意見を聞く予定。

- ・2学期の授業では、子どもたちが積極的に意見を出し合い、充実した内容となっていた。その後、方向性が決まったことについて子どもたちにフィードバックすることが必要ではないか。

《教育委員会》

⇒子どもたちに向けては1月下旬～2月上旬に授業を実施する予定。4割程度は不安に思っている子どもたちだったので、その子たちが安心できるような授業をしてほしいという意見も頂戴している。

- ・子どもたちへの授業で不安を口にする子に対して、別の子が「そんななんとなかなさ」と声かけしていたのが印象的だった。
- ・未就学児と小学生の子をもつ現役のお母さんから話を聞いた。統合に対して不安があったが、「児童数の推移」で令和10年に1年生になる子が15人というデータを見て、「諦めがついた、早くに統合の話を進めてほしい」と言っていた。

《教育委員会》

⇒A案であれば早く統合することも可能だが、B案C案になると工事期間は必要になるため、どうしても待つ期間は長くなる。

- ・どの案にするか早く決めて教えてほしいという声は聞く。ただ、委員としては将来を考えみんなが納得できることを時間をかけて選びたい。一旦一緒になった上で、その間に小中一貫校を建てるのがお互いに単学級の期間は少ないと思うが、どうなのか。どうしたら将来的に清和台地区にとって良いのかを考えたい。
- ・1校の運営費が7000万円もかかると聞いて驚いた。統合するのであれば、この金額をどのように清和台地区に還元していくのかを見える化することで、納得感を得られると考えている。

【今後の清和台地区の教育環境について】

<問>ただ今お伝えしましたA案からC案のメリット・デメリットを踏まえて、各案についての皆さまのお考えをお伺いしたいと思います。

- ・川西養護学校の子どもたちにとってもメリットのある環境を選びたい。

- ・川西養護学校の子どもたちも多様な価値観に触れることで将来うまく社会適合できるなどメリットがあるので、C案が良いと考えている。ただ、障がいの特性上、集団で過ごすことが難しい子もいるため、運営方法についてはじっくり検討する必要がある。
- ・川西養護学校の子どもたちは、いろいろな子と触れあうことが嬉しい子もいれば、苦しくて症状につながる子もいる。清和台地区の子どもたちは川西養護学校のことをよく知ってくれているが、お互いに負担にならない環境づくりができればと思う。
- ・中学生と小学生とが相互に触れ合う機会、川西養護学校の子たちと関わりあう機会は子どもたちの心の成長に確実にプラスになる。
- ・3学期の始業式で学校から子どもたちに話をし、保護者には学校だよりで説明した。統合の理由を問う声もあったが、子どもたちには、未来の子どもたちのためにしっかり考えてほしいと伝えている。子どもたちにとって最善の方法を意見交換しながら検討したいと思う。
- ・両荘みらい学園に視察に行ったときに小中一貫校の大きな魅力を感じたので、近い将来、児童数が減っていくことを考えると最も良いと思っている。今後、けやき坂小も含めて検討するのであれば地域だけでなく、早期に保護者も含めて話し合いをしてほしい。
- ・A案は子どもの数が減ったらまた単学級になることが見えているので、B案C案を推したい。
- ・子どもは環境が変わっても順応性が高い。初めは悩むかもしれないが、時間が経てば問題はなくなるのではないかと考えている。川西養護学校は老朽化もあり設備も古いと聞いたので、一緒になれば良いと思っている。
- ・自分もC案が良いと考えている。小さい頃から障がいのある人もない人も一緒に過ごすことが当たり前になれば良いと思う。川西養護学校に関しては、現場の意見が最重要。行政主導で作りこみすぎると現場サイドが置いていかれる可能性もあるので、川西養護学校と相談しながら進められたら良いと思う。

《教育委員会》

⇒川西養護学校の老朽化についての話があったが、昭和52年開校当時と現在とではバリアフリーの設備も変わっている。清和台地区の学校のあり方を検討するこの機会に、良いものを得るチャンスでもある。保護者からすると立地面の不安も大きいと思うが、他の場所に建てるというのは土地探しも含めて考えなければならないため、高いハードルがあると感じている。

- ・清和台中の敷地であれば、グラウンドもしっかり確保でき、小中一貫校としてひとつの学校でやれるのか。

《教育委員会》

⇒ご認識のとおり。

- ・場所が決まってから予算を確保するのか。先に予算を確保しておけば、早くにいろいろなことが決められると思う。保護者や児童の不安を解消するためにステップを踏みすぎて、なかなか前に進めないという状況は避けたい。不安材料だけを言うのではなく、安心材料を提供して行ってほしい。

《教育委員会》

⇒内容が決まってから予算確保ができる。通学支援などの安心材料を提供できるように取り組んでいきたい。

《教育委員会》

⇒昨年3月から12月まで9ヶ月かけて話し合いを続け、決まったのは「ひとつの学校になる」ということだけ。ただ、保護者から丁寧に聞き取りの場を設け、子どもたちと一緒に学ぶ機会をもったことが説明会での意見に反映されていたと思う。今回から3パターンの具体的な検討に入っていく。様々な意見があり、それを事務局や学校現場を通してひとつひとつ解決していかなければならないと思っている。スケジュール的に、今年の夏には方向性をはっきりさせる必要があると考えている。この懇話会においての意見を踏まえて、最終的には教育委員会としてどうするのかを決断する。また、7～8月には跡地をどうするのかについて、別の部会を立ち上げて市長部局を中心に検討したい。